


所属長印			
同志社大学			
<p>2016年度 個人研究費研究経過・成果報告書</p> <p style="text-align: right;">2017年1月25日提出</p>			
所属	職名	氏名	印
歴史資料館	准教授	浜中邦弘	
研究題目	藤原摂関家の考古学的検討一瓦・寺院・都市をテーマにー		
研究成果の概要	<p>今年度も昨年度に引き続き、近世の二條家に関する調査・研究を中心に摂関家の動向を探ってきた。二條家邸の発掘調査資料を中心に考古学に限らず他分野の資料もあわせて収集し、近世二條家に関する分析を行ってきた。二條家は後に五摂家と称される藤原摂関家の一門である。調査では17世紀後半から幕末期におけるおよそ200年間にわたって二條家邸がどのような変遷をたどっていたのかを知る上で多くの成果を得ることができた。今年度は特に幕末期における二條家を分析し、朝廷を代表する摂関家の姿を少しではあるが明らかにすることができた。来年度以降も継続する予定である。</p> <p>近世関係の資料は公開されていないものが多く、情報を入手するのに他の時代より格段に時間がかかってしまうが、昨年度から引き続き資料を収集し、少なからず資料を集めることができてきた。近世二條家の実態が少しずつではあるが明らかとなってきた。二條家文書を所有する慶応大学・京都教育大学との共同作業の環境も整ってきた。今年度は二條家が所有していた重要文化財含む二條家文書を譲り受けた。長きにわたって二條家と接触してきた一つの成果ともいえる。</p> <p>またこれまで二尊院にある二條家の墓地調査を進めてきたが、第一段階にあたる凶化の基礎部分が完成し、現在トレース作業を進め3分の1程が終了した。</p>		